

# 基本目標 1

## 安心なくらしを守り、 住み続けられる地域をつくる

数値目標	基準値 (H26 年度)	目標値 (H32 年度)
例) 地域交流拠点数	0箇所	8箇所
例) 空き家・空き部屋の数	今後把握	20%減

### 1. 基本的方向

- ・子育てがしやすい町を目指す際、重要となるのは地域とのつながりである。そこで、公共施設や空き店舗などを活用し、平時より多世代間の交流が図れる地域交流拠点を設置する。
- ・町内に点在する空き家・空き部屋は、地域の環境・治安・景観などに影響を及ぼす恐れがある反面、住宅や店舗、コミュニティの場として活用できる可能性を秘めている。そこで、町内にある空き家・空き部屋に対する実態調査を行い、活用を目指す。

### 2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）の例

#### (1) 地域交流拠点の形成

重要業績評価指標（KPI）	基準値 (2015（平成 27）年)	目標値 (2019（平成 31）年)
例) 地域交流施設の利用者数	0人	●人

具体的な事業	新規/既存	担当課名
例) 公共施設や空き店舗を活用した地域交流拠点の形成	新規	—

#### (2) 空き家・空き部屋の調査・活用

重要業績評価指標（KPI）	基準値 (2015（平成 27）年)	目標値 (2019（平成 31）年)
例) 空き家・空き部屋の活用実績	0件	5件

具体的な事業	新規/既存	担当課名
例) 公社集合住宅(団地)を活用した同世代コミュニティのプロデュース(創出)	新規	—

## ■ 総合戦略骨子の作成の手順と検討組織の役割

